

特 別 報 告

昭和43年結核実態調査対象者の5年間の追跡調査成績

厚生省公衆衛生局（局長 佐分利輝彦）

結核実態調査会議（委員長 岩崎龍郎）

1. 調査の目的

昭和43年結核実態調査被調査者について、その後5年間の結核発病の状況を調査し、発病の危険の高いグループの特性を明らかにすることを目的として当調査を行った。

2. 調査対象

昭和43年結核実態調査の被調査者72,705人から、①X線検査を受けなかった者1,775人、②実態調査で活動性と判定された者1,010人、および、③調査時に保健所に登録されていた者で②に該当しない者454人を除いた69,416人を追跡調査の客体とした。なお、このうちの6人は、保健所保管の対象者と磁気テープより作成した対象者が一致しなかったために除外した。したがって調査対象数は69,410人である。

3. 調査方法

昭和43年結核実態調査の磁気テープより各調査地区ごとに「追跡調査連名簿」を作成し、これによつて調査を行った。まず家庭訪問により、昭和48年7月31日現在、該当調査地区内に在住しているか否か、否の場合は転出か死亡かを調査した。次いで保健所の結核登録台帳、登録票、索引簿などにより観察期間中の登録の有無を調査した。

43年結核実態調査は43年7月に行われているので、昭和43年8月1日より48年7月31日の間に新しく登録された者を新登録者とした。なお登録後の情報で後になつて非結核性疾患と判明した者は、はじめから登録がなかったものとして扱つた。

これらの成績を記載した「追跡調査連名簿」は厚生省公衆衛生局結核成人病課に集められ、厚生省統計情報部が原表の作成を行い、結核実態調査会議が成績の解析を行った。

4. 調査状況

性・年齢階級別の調査状況は表1のごとくである。調査対象69,410人のうち、46,645人、67.2%は調査時に該当調査地区内に在住しており、20,535人、29.6%は転

出、1,695人、2.4%は死亡していた。状況を把握することができなかつた者は535人、0.8%のみで、99.2%の者の状況を明らかにした。

現在、転出、死亡の割合は性別にみてもほとんど差をみない。年齢別にみると、男でも女でも15~29歳のものでは転出率が高く、47.8%あるいは53.5%にのぼつた。在住の比率が最も高率だつたのは、男女いずれでも45~59歳の者で、82.4%あるいは83.7%であつた。

また表は省略したが、東西ブロック、市郡別にみても調査状況に大きな偏りはみられなかつた。

5. 調査成績

1) 結果の概要

昭和43年8月1日から昭和48年7月31日までの5年間に新たに登録された者は244人であつた。転出、死亡者についてはそれまでの間の登録の有無が調査されたが、転出あるいは死亡までの期間は調査しなかつたので、平均2.5年で転出または死亡したものとし、次式によつて人口10万対の年間発生率を計算した。

$$\text{発生率} = \frac{\text{新登録者数}}{\text{在住} \times 5 + (\text{転出} + \text{死亡}) \times 2.5} \times 100,000$$

性、東西ブロック別に発生率をみると表2のごとくである。全体では10万対84.5、男では106.8、女では64.2で、男女比は1.7対1であつた。

東西ブロック別にみると、東ブロック（新潟、長野、静岡県以東の都道府県）の発生率は70.6だつたのに対し、西ブロック（富山、岐阜、愛知県以西の府県）では98.2で西ブロック発生率は東に比して約1.4倍高率であつた。

東西、いずれのブロックでも男の発生率は女の発生率の1.6~1.7倍なので、結核発生率が最も高率だつた西ブロックの男と、最も低率だつた東ブロックの女を比較すると、西ブロックの男の発生率は2.3倍高率であつた。

2) 性・年齢階級別観察

昭和43年の年齢で15歳ごとにまとめて発生率をみると表3のごとくである。44歳までは、男では10万対56~64、女では45~56の発生率で男女間に大きな差はみられなかつたが、45歳以上では男の発生率が著しく高く、237.7あるいは275.4となる。女の同年齢階級の発

生率 79.8 あるいは 136.2 に比べると、男の発生率は3倍あるいは2倍であった。

3) 東西ブロック別観察

性・年齢階級別に、東西ブロック別の結核発生率をみると、表4のごとくである。15~29歳の男女および45~59歳の女を除けば、いずれの年齢、いずれの性でも、西の発生率が高かった。とくに60歳以上の年齢階級では、男女とも西の発生率は東に比して遙かに高率である。

性、市郡別に東西ブロックの発生率を比較すると、表5のごとくである。いずれの群でも西の発生率が高いが、とくに七大都市の男、郡部の男女で、西ブロックの発生率が高い点が目立った。

4) 昭和43年の指導区別観察

①概説：昭和43年の結核実態調査時に要観察とされた者、X線写真で治癒所見を認めた者、および異常を認めなかった者の3郡に分けて発生率をみると、表6のごとくである。要観察とされた者からの年間発生率は10万対1,135.7と著しい高値を示し、異常なしとされた者からの発生率10万対58.5の19.4倍であった。治癒所見が認められた者からの発生率も高く10万対222.1で、異常なしの3.8倍を示した。

観察対象者のうち要観察とされた者は0.8%にすぎないが、新登録患者の11.1%はこの0.8%から発生している。また治癒所見を認める者は対象者の10.2%にすぎないが、新登録者の27.5%はここから発生した。したがって、全体の約11%を占めるにすぎない要観察および治癒所見をもつ者から、新登録例の1/3以上が発生したこととなる。

②性別観察：43年の指導区別の発生率を男女別にみると、表6に示したごとくである。要観察からの発生率は男1,148.7、女1,114.2、治癒所見あり群からの発生率は男239.4、女205.9で男女間に大きな差がみられないのに、異常なし群からの発生率は男78.2に対し、女では40.8で、男は女の1.9倍の発生率であった。

③東西ブロック別観察：指導区別の発生率を東西ブロック別に観察すると、表6に示したごとくである。いずれの指導区分でも、西ブロックの発生率は東より高率である。とくに治癒所見を認める者からの発生率は東ブロックでは165.8だったのに、西ブロックでは278.3と高値を示し、約1.7倍であった。

④年齢階級別観察：昭和43年の結核実態調査で要観察とされ、しかも登録されていなかった者は561人のみであり、この中から5年間に新登録された者は27人のみであった。したがって性・年齢別にみると観察数が少なくなるが、その成績は表7に示したごとくである。同じく要観察とされた者であっても、高年齢の方が発生率が高く、60歳以上では男でも女でも年間発生率は

10万対1,500以上の高率を示した。

昭和43年に治癒所見が認められた者からの発生率を性・年齢階級別にみると、男では45歳以上で発生率が高かった。女では45歳未満の発生率は男より高いが、45歳以上では男のように高率にならない。

43年に異常なしとされた者からの発生率は、男では45歳未満では人口10万対50~60の発生率であるが、45歳以上では3倍、あるいはそれ以上高率となる。女では60歳未満まで人口10万対40程度の発生率で、60歳以上ではこれよりやや高い発生率であった。

6. 昭和43年の岡病型別観察

①概説：昭和43年の結核実態調査時の岡病型別に発生率をみると表8のごとくである。I~VII型(除VIA型)の所見があつて要医療とならなかった者からの発生率は著しく高く、年間1,564.3にのぼった。次いでVIA型で505.7、以下VIII, IX, XI, X型、異常なしの順であつた。異常なしに比べれば、X型からの発生率は3.1倍高く、VIII, IX型は4.4倍、VIA型は8.6倍、I~VII型(除VIA型)は26.7倍の高率であった。

②年齢階級別観察：岡病型VIA, VIII, IX, X型からの発生率を年齢階級別にみると表8に示したごとくである。岡病型VIAでは25歳未満では観察数が少なく新登録者がみられなかった。25歳以上では高年齢ほど発生率が高いが、45歳以上では10万対約680で、55歳以上と大きな差をみなかった。

岡病型VIII, IX型でも25歳未満では新登録者は認められなかった。その他の年齢では210ないし406の発生率で、年齢による一定の傾向は認められなかった。

岡病型X型からの発生率を年齢階級別にみると、0~9歳では観察数は少ないが発生率は極めて高く、年間10万対533.3にのぼった。10歳以上では発生率はほぼ100ないし150で、年齢による差は著明ではなかった。

③化学療法有無別の観察：岡病型のVIA, X, VIII, IX型の者について、実態調査時までの化学療法の有無別に発生率をみると、表9のごとくである。いずれの病型でも化学療法あり群で発生率が高かった。同一病型の者でも、病状の重い者には治療が行われ、軽い者には治療が行われなかったためと考えられよう。

7. 昭和43年の学会病型呼吸器症状の有無別観察

①学会病型別観察：昭和43年の学会病型別に発生率をみると表10のごとくである。I, II, III型と判定されながら要医療とならなかった者は3例のみで、これらから新登録例はみられていない。IV, V, Op型および異常なしでみると、IV型からの発生率が最も高く1,100.9にのぼり、以下V型223.5, Op型179.4, 異常なし58.5の順であった。

異常なしの発生率に比べると、IV型は 18.8 倍、V型は 3.8 倍、Op 型は 3.1 倍高い発生率であった。

②呼吸器症状の有無別観察：43年の調査時に、1カ月以上続くせき、たん、あるいは胸痛、または6カ月以内の咯血、血たんがあつたか否か別に、その後の結核発生率をみると表 10 のごとくである。何らかの呼吸器症状を訴えた者からの発生率は 249.6 で、呼吸器症状を訴えていなかった者からの発生率 79.1 に比し、3.2 倍高い発生率であった。

学会病型別にみても同様で、学会IV型の所見をもつ者で症状を訴えていなかった者からの発生率は 1,050.3 だったのに対し、呼吸器症状を訴えていた者からの発生率は 1,079.1 で、1.7 倍高率であった。V型でも同様で、何らかの症状を訴えていた者からの発生率は症状なしに比し、3.2 倍高率であった。また胸部X線で結核性所見を認められなかつた者でも、何らかの症状を訴える者からの発生率は症状なしの 1.9 倍の高率であった。

症状の種類別に発生率をみると図 1 のごとくである。咯血、血たんを訴えた者からの発生率が最も高く、1カ月以上続くせきがこれに次いだ。

8. BCG 接種の有無、ツベルクリン反応の大きさ別観察

①概説：BCG 接種有無別の発生率を全体でみると図 2 のごとくである。BCG 接種あり群の発生率は 10 万対 52.0 だったのに対し、BCG 接種なし群の発生率は 122.8 で、BCG あり群の発病率は、なし群の 42.3% であった。東西ブロック別にみると、西ブロックの方が BCG 接種有無別の発生率の差が大きい。

BCG 接種の有無別、昭和 43 年のツベルクリン反応の大きさ別に発生率をみると、表 11 のごとくである。BCG 接種あり群でもなし群でも、ツ反応の大きさが大きい者からの発生率が高い。ただしツ反応の大きさは 43 年実態調査時の者であり、ツ反応が 10 mm 未満の場合、実態調査時に BCG の接種が行われている者も多いと推定されるので、本当の意味での BCG 接種有無別の発生率とはいえないことに注意することが必要である。

②年齢階級別観察：年齢階級、BCG 接種の有無、ツ反応の大きさ別に発生率をみると表 12 のごとくである。0～9 歳では BCG 接種なし群でツ反応が陽性だった者は 700 人にすぎず、これからの発病は 1 人のみで、BCG あり群の発病率より低率であった。他の年齢層では BCG なし群の発生率は BCG あり群より高く、いずれでもツ反応の大きさが大きいほど発生率が高い傾向であった。

9. 仕事の種類、事業所・事務所の規模別の観察

仕事の種類別に発生率をみると表 13 のごとくである。発生率が最も高かつたのは無職の者で、年間発生率は 10 万対 199.0 であった。最も低い小・中学生の 38.9 に比べれば 5.1 倍である。無職に次いで発生率が高いのは日雇労働者で、以下商人・職人、常用労働者、官公庁職員、農林漁業の順となつている。

事業所・事務所の規模別に発生率をみると表 14 のごとくである。規模別の発生率には一定の傾向は認められなかつた。

10. 登録時排菌陽性例についての観察

新登録例 244 例について、登録後 6 カ月以内の菌検査状況および排菌状況を見ると、表 15 のごとくである。排菌状況が把握されていた者は新登録例の 65.6% であった。排菌陽性は 24 例で、排菌状況が明らかな例の 15.0%、全体の 9.8% であった。

東西ブロック、性・年齢階級別に排菌陽性例の発生率をみると図 3 のごとくである。全体では 10 万対 8.31 であり、男では 10.9、女では 6.0 であった。東西ブロック別にみると、東ブロック 6.98 に対し、西ブロックでは 9.61 であった。排菌陽性患者の発生率が最も高率だったのは西ブロックの男の 30 歳以上で、10 万対 20.99 の発生率であった。

43 年の指導区分別に排菌陽性例の発生率をみると、表 16 のごとくである。異常なしからの発生率に比べると、治療からの発生率は 3.2 倍、要観察からの発生率は 13.5 倍であった。

BCG 接種の有無、ツベルクリン反応の強さ別に排菌陽性患者の発生率をみると、表 17 のごとくである。ツベルクリン反応が大きくなるに従つて発生率が高い。また BCG 接種の有無別にみると、BCG なし群とあり群の比は 100 対 35.8 であった。

11. 結 論

昭和 43 年結核実態調査対象者からの 5 年間の結核新発生の状況を調査し、わが国の結核新発生のハイリスクグループの概要を明らかにすることができた。新発生は届出の有無でみているので診断に偏りが無いとはいえないが、排菌陽性例の占める比率はいずれの観察でも新発生総数の約 1/10 になつているので、診断上の偏りはほとんどないものと考えられた。

終わりに困難な調査にたずさわられた全国保健所の各位に謝意を表します。

表1 性・年齢階級別追跡調査状況

		対象者数		追跡できた								不明	
				総数		在住		転出		死亡			
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	総数	69,410	100.0	68,875	99.2	46,645	67.2	20,535	29.6	1,695	2.4	535	0.8
	0～14歳	17,882	100.0	17,821	99.7	12,690	71.0	5,106	28.6	25	0.1	61	0.3
	15～29	18,268	100.0	18,012	98.6	8,685	47.5	9,267	50.7	60	0.3	256	1.4
	30～44	16,085	100.0	15,979	99.3	11,739	73.0	4,136	25.7	104	0.6	106	0.7
	45～59	10,189	100.0	10,133	99.5	8,472	83.1	1,358	13.3	303	3.0	56	0.5
	60歳～不明	6,954	100.0	6,926	99.6	5,052	72.6	668	9.6	1,202	17.3	28	0.4
	32	100.0	4	12.5	3	9.4	—	—	1	3.1	28	87.5	
男	総数	33,128	100.0	32,845	99.1	22,197	67.0	9,741	29.4	907	2.7	283	0.9
	0～14歳	9,104	100.0	9,071	99.6	6,502	71.4	2,555	28.1	14	0.2	33	0.4
	15～29	8,789	100.0	8,651	98.4	4,421	50.3	4,197	47.8	33	0.4	138	1.6
	30～44	7,690	100.0	7,639	99.3	5,447	70.8	2,123	27.6	69	0.9	51	0.7
	45～59	4,440	100.0	4,419	99.5	3,660	82.4	591	13.3	168	3.8	21	0.5
	60歳～不明	3,075	100.0	3,063	99.6	2,166	70.4	275	8.9	622	20.2	12	0.4
	30	100.0	2	6.7	1	3.3	—	—	1	3.3	28	93.3	
女	総数	36,282	100.0	36,030	99.3	24,448	67.4	10,794	29.8	788	2.2	252	0.7
	0～14歳	8,778	100.0	8,750	99.7	6,188	70.5	2,551	29.1	11	0.1	28	0.3
	15～29	9,479	100.0	9,361	98.8	4,264	45.0	5,070	53.5	27	0.3	118	1.2
	30～44	8,395	100.0	8,340	99.3	6,292	74.9	2,013	24.0	35	0.4	55	0.7
	45～59	5,749	100.0	5,714	99.4	4,812	83.7	767	13.3	135	2.3	35	0.6
	60歳～不明	3,879	100.0	3,863	99.6	2,890	74.5	393	10.1	580	15.0	16	0.4
	2	100.0	2	100.0	2	100.0	—	—	—	—	—	—	

表2 性、東西ブロック別新登録者数移動状況および発生率(人口10万対)

		新登録数	観察数	在住	転出	死亡	発生率
総数	総数	244	68,875	46,645	20,535	1,695	84.5
	男	147	32,845	22,197	9,741	907	106.8
	女	97	36,030	24,448	10,794	788	64.2
東	総数	101	34,410	22,856	10,769	785	70.6
	男	60	16,611	11,026	5,169	416	86.8
	女	41	17,799	11,830	5,600	369	55.4
西	総数	143	34,465	23,789	9,766	910	98.2
	男	87	16,234	11,171	4,572	491	127.0
	女	56	18,231	12,618	5,194	419	72.6

表3 性・年齢階級別新登録者数移動状況および発生率(人口10万対)

		新登録数	観察数	在住	転出	死亡	発生率
総数	総数	244	68,875*	46,645*	20,535	1,695*	84.5
	0～14歳	39	17,821	12,690	5,106	25	51.1
	15～29	39	18,012	8,685	9,267	60	58.4
	30～44	38	15,979	11,739	4,136	104	54.8
	45～59	69	10,133	8,472	1,358	303	148.4
	60歳～	59	6,926	5,052	668	1,202	197.0
男	総数	147	32,845*	22,197*	9,741	907*	106.8
	0～14歳	22	9,071	6,502	2,555	14	56.5
	15～29	20	8,651	4,421	4,197	33	61.2
	30～44	21	7,639	5,447	2,123	69	64.2
	45～59	48	4,419	3,660	591	168	237.7
	60歳～	36	3,063	2,166	275	622	275.4
女	総数	97	36,030*	24,448*	10,794	788	64.2
	0～14歳	17	8,750	6,188	2,551	11	45.5
	15～29	19	9,361	4,264	5,070	27	55.8
	30～44	17	8,340	6,292	2,013	35	46.5
	45～59	21	5,714	4,812	767	135	79.8
	60歳～	23	3,863	2,890	393	580	136.2

*年齢不詳があるため年齢階級別の合計は総数と一致しない。

表4 性・年齢階級、東西ブロック別発生率および東西ブロックの比

		東	西	西/東の比
男	総数	86.8	127.0	1.46
	0~14歳	36.3	76.4	2.10
	15~29	69.9	51.6	0.74
	30~44	55.5	72.8	1.31
	45~59	214.8	261.2	1.22
	60歳~	162.3	376.1	2.32
女	総数	55.4	72.6	1.31
	0~14歳	37.8	53.1	1.40
	15~29	59.3	52.4	0.88
	30~44	33.0	59.8	1.81
	45~59	86.0	73.9	0.86
	60歳~	90.6	174.8	1.93

表5 性、市郡、東西ブロック別発生率および東西ブロックの比

		東	西	西/東の比
男	七大都市	72.5	184.5	2.54
	その他の市郡	107.3	110.1	1.03
	郡部	66.2	121.9	1.84
女	七大都市	84.7	87.0	1.03
	その他の市郡	52.3	57.3	1.10
	郡部	42.4	88.2	2.08

表6 昭和43年の指導区分別新登録者数移動状況および発生率(人口10万対)とその比率

		指導区分	新登録	観察数	在住	転出	死亡	発生率	比率
総数	要観察	27	561	390	124	47	1,135.7	19.4	
	治療	67	7,043	5,024	1,630	389	222.1	3.8	
	異常なし	150	61,271	41,231	18,781	1,259	58.5	1.0	
男	要観察	17	347	245	67	35	1,148.7	14.7	
	治療	35	3,422	2,427	765	230	239.4	3.1	
	異常なし	95	29,076	19,525	8,909	642	78.2	1.0	
女	要観察	10	214	145	57	12	1,114.2	27.3	
	治療	32	3,621	2,597	865	159	205.9	5.0	
	異常なし	55	32,195	21,706	9,872	617	40.8	1.0	
東	要観察	9	217	154	48	15	970.4	18.4	
	治療	25	3,528	2,503	843	182	165.8	3.1	
	異常なし	67	30,665	20,199	9,878	588	52.7	1.0	
西	要観察	18	344	236	76	32	1,241.4	19.3	
	治療	42	3,515	2,521	787	207	278.3	4.3	
	異常なし	83	30,606	21,032	8,903	671	64.3	1.0	

表7 昭和43年の指導区分、性・年齢階級別観察数および発生率(人口10万対)

		要観察		治療		異常なし	
		観察数	発生率	観察数	発生率	観察数	発生率
総数	総数	561	1,135.7	7,043	222.1	61,271	58.5
	0~14歳	4	-	169	139.9	17,648	50.3
	15~29	30	952.4	821	231.0	17,161	48.7
	30~44	159	299.6	2,129	142.9	13,604	38.6
	45~59	216	1,350.7	7,279	252.8	7,638	85.1
	60歳~	152	1,753.0	1,644	284.4	5,130	125.6
男	総数	347	1,148.7	3,422	239.4	29,076	78.2
	0~14歳	3	-	78	-	8,990	57.0
	15~29	16	-	361	145.5	8,274	57.6
	30~44	95	484.9	1,083	87.2	6,461	54.1
	45~59	140	1,451.6	1,110	340.3	3,169	150.9
	60歳~	93	1,579.0	790	359.3	2,180	192.5
女	総数	214	1,114.2	3,621	205.9	32,195	40.8
	0~14歳	1	-	91	256.4	8,658	43.3
	15~29	14	2,105.3	460	302.1	8,887	40.2
	30~44	64	-	1,046	199.5	7,230	25.2
	45~59	76	1,167.9	1,169	170.1	4,469	38.7
	60歳~	59	2,020.2	854	216.7	2,950	77.3

表 8 昭和43年の岡病型年齢階級別新登録者数移動状況および発生率(人口10万対)

昭和43年の岡病型・年齢		新登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
I～VII型(除VI A型)		7	105	74	25	6	1,564.3
VI A 型	総 数	41	1,877	1,366	390	121	505.7
	0～24歳	—	61	30	31	—	—
	25～34	1	186	104	81	1	137.9
	35～44	5	430	323	106	1	265.6
	45～54	15	488	395	82	11	679.5
55歳～	20	712	514	90	108	650.4	
VIII・IX型	総 数	10	894	647	175	72	259.6
	0～24歳	—	54	27	26	1	—
	25～34	1	105	66	39	—	233.9
	35～44	3	166	129	35	2	406.8
	45～54	2	213	167	39	7	210.5
55歳～	4	356	258	36	62	260.6	
X 型	総 数	35	4,594*	3,240*	1,119	235	178.7
	0～9歳	1	44	31	13	—	533.3
	10～24	2	430	220	209	1	123.1
	25～34	4	651	360	288	3	158.3
	35～44	5	1,062	777	272	13	108.8
	45～54	5	973	781	171	21	114.0
55歳～	18	1,433	1,070	166	197	287.7	
XI 型		1	135	88	45	2	179.4
異常なし		150	61,270	41,230	18,781	1,259	58.5

*年齢不詳があるため年齢階級の合計は総数と一致しない。

表 9 昭和43年の岡病型治療有無別新登録者数移動状況および発生率(人口10万対)

昭和43年の岡病型	治療有無	新登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
I～VII型 (除VI A型)	有	3	39	28	9	2	1,791.0
	無	4	41	28	9	4	2,318.8
	不明	—	25	18	7	—	—
VI A 型	有	11	434	295	126	13	603.6
	無	15	806	610	132	64	423.7
	不明	15	637	461	132	44	546.5
VIII・IX型	有	1	68	50	17	1	339.0
	無	5	470	338	91	41	247.5
	不明	4	356	259	67	30	260.2
X 型	有	5	262	169	86	7	464.0
	無	20	2,408	1,738	542	128	193.0
	不明	10	1,924	1,333	491	100	122.8
XI 型	有	1	131	86	43	2	184.3
	無	—	3	2	1	—	—
	不明	—	1	—	1	—	—
異常なし	有	6	690	451	224	15	210.3
	無	76	31,236	21,463	9,093	680	57.7
	不明	68	29,344	19,316	9,464	564	55.9

表 10 昭和43年の学会病型呼吸器症状の有無別発生率(人口10万対)

		新登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
総 数	総 数	244	68,875	46,645	20,535	1,695	84.5
	I・II・III	—	3	3	—	—	—
	IV	27	579	402	129	48	1,100.9
	V	66	6,888	4,922	1,580	386	223.5
	Op	1	135	88	45	2	179.4
	0	150	61,270	41,230	18,781	1,259	58.5
何 ら か の 症 状 あ り	総 数	23	2,228	1,458	611	159	249.6
	I・II・III	—	—	—	—	—	—
	IV	3	41	26	8	7	1,791.0
	V	11	403	287	71	45	637.7
	Op	1	14	10	4	—	1,666.7
	0	8	1,770	1,135	528	107	110.2
呼 吸 器 症 状 な し	総 数	221	66,647	45,187	19,924	1,536	79.1
	I・II・III	—	3	3	—	—	—
	IV	24	538	376	121	41	1,050.3
	V	55	6,485	4,635	1,509	341	197.8
	Op	—	121	78	41	2	—
	0	142	59,500	40,095	18,253	1,152	57.0

表 11 BCG 有無, ツ反応の大きさ別発生率(人口10万対)

		ツ反応	新登録 者 数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
総 数	総 数		244	68,875	46,645	20,535	1,695	84.5
	～9mm		31	14,222	10,099	3,825	298	51.0
	～19		101	33,506	22,369	10,330	807	72.3
	～29		69	12,809	8,608	3,883	318	128.9
	30mm～		35	5,798	4,000	1,630	168	142.9
	不 詳		8	2,540	1,569	867	104	77.9
B C G あ り	総 数		78	36,811	23,187	13,456	168	52.0
	～9mm		8	6,574	4,439	2,117	18	29.1
	～19		37	20,440	12,825	7,519	96	44.5
	～29		23	6,305	3,860	2,420	25	90.5
	30mm～		8	2,317	1,393	902	22	86.3
	不 詳		2	1,175	670	498	7	43.4
B C G な し	総 数		160	30,067	22,032	6,612	1,423	122.8
	～9mm		23	7,301	5,414	1,623	264	72.4
	～19		61	12,178	8,910	2,610	658	115.7
	～29		44	6,070	4,432	1,361	277	167.6
	30mm～		26	3,266	2,443	685	138	182.2
	不 詳		6	1,252	833	333	86	115.1
B C G 有 無 不 詳	総 数		6	1,997	1,426	467	104	70.1
	～9mm		—	347	246	85	16	—
	～19		3	888	634	201	53	78.8
	～29		2	434	316	102	16	106.7
	30mm～		1	215	164	43	8	105.5
	不 詳		—	113	66	36	11	—

表 12 BCG 有無, ツ反応の大きさ, 年齢階級別新登録者数および発生率* (人口10万対)

年齢	BCG	ツ反応	登録	観察数	在住	転出	死亡	発生率	年齢	BCG	ツ反応	登録	観察数	在住	転出	死亡	発生率
0歳	あり	総数	23	7,273	5,347	1,921	5	72.9	35歳	あり	総数	12	4,579	3,457	1,087	35	59.7
		～9mm	6	2,717	1,942	772	3	51.5			～9mm	—	617	508	105	4	—
		～19	15	3,706	2,779	927	—	92.5			～19	4	2,137	1,629	489	19	42.5
		～29	2	613	462	151	—	74.4			～29	5	1,044	773	265	6	110.1
		30mm～	—	85	64	21	—	—			30mm～	3	572	397	170	5	123.8
	不詳	—	152	100	50	2	—	不詳	—	209	100	58	1	—			
	なし	総数	7	4,366	3,058	1,301	7	37.7	44歳	なし	総数	18	5,149	4,071	1,032	46	78.1
		～9mm	6	3,549	2,453	1,093	3	40.0			～9mm	1	643	550	88	5	33.5
		～19	1	606	465	139	2	37.3			～19	6	2,042	1,625	397	20	65.4
		～29	—	73	48	24	1	—			～29	6	1,375	1,074	291	10	98.0
30mm～		—	21	9	12	—	—	30mm～			4	831	632	191	8	109.4	
不詳	—	117	83	33	1	—	不詳	1	258	190	65	3	89.3				
10歳	あり	総数	24	14,786	8,059	6,688	39	42.0	45歳	あり	総数	5	1,131	913	192	26	97.9
		～9mm	2	2,071	1,183	883	5	24.6			～9mm	—	130	115	13	2	—
		～19	12	9,334	5,170	4,138	26	33.0			～19	1	501	408	82	11	44.0
		～29	9	2,346	1,220	1,121	5	101.0			～29	3	293	227	61	5	230.8
		30mm～	—	607	281	324	2	—			30mm～	—	160	130	23	7	—
	不詳	1	428	295	222	1	63.2	不詳	1	47	33	13	1	500.0			
	なし	総数	14	3,492	1,825	1,652	15	105.3	54歳	なし	総数	34	5,538	4,640	769	129	133.6
		～9mm	2	485	279	205	1	104.7			～9mm	3	816	740	53	23	77.1
		～19	6	2,063	1,087	965	11	76.2			～19	11	2,226	1,875	301	50	107.3
		～29	3	605	305	297	3	131.9			～29	12	1,372	1,109	230	33	193.5
30mm～		2	221	105	116	—	245.4	30mm～			5	886	746	125	15	122.6	
不詳	1	118	49	69	—	239.5	不詳	3	238	170	60	8	294.1				
25歳	あり	総数	11	8,546	5,014	3,506	26	32.5	55歳	あり	総数	3	496	397	62	37	134.4
		～9mm	—	983	642	340	1	—			～9mm	—	56	49	4	3	—
		～19	4	4,524	2,648	1,857	19	22.3			～19	1	238	191	26	21	93.2
		～29	3	1,887	1,080	803	4	40.4			～29	1	122	98	19	5	181.8
		30mm～	4	830	477	352	1	122.4			30mm～	1	63	44	12	7	373.8
	不詳	—	322	167	154	1	—	不詳	—	17	15	1	1	—			
	なし	総数	6	2,535	1,558	966	11	58.6	34歳	なし	総数	81	8,983	6,877	892	1,214	204.3
		～9mm	—	211	139	69	3	—			～9mm	11	1,597	1,253	115	229	154.4
		～19	2	1,175	741	430	4	41.8			～19	35	4,064	3,116	378	570	195.0
		～29	3	708	407	297	4	107.6			～29	20	1,936	1,488	222	226	233.6
30mm～		1	315	191	124	—	79.1	30mm～			14	991	759	117	115	320.0	
不詳	—	125	80	46	—	—	不詳	1	395	261	60	74	61.0				

* BCG接種の有無不明を除く。

表 13 仕事の種類別新登録者数移動状況および発生率 (人口10万対)

	新登録数	観察数	在住	転出	死亡	発生率
総数	244	68,875	46,645	20,535	1,695	84.5
常用労働者	42	9,888	5,672	4,114	102	108.0
日雇労働者	7	1,153	817	303	33	142.1
民間職員	16	6,354	3,276	3,007	74	66.5
官公庁職員	10	2,388	1,514	858	16	102.5
商人・職人	22	4,184	3,229	830	125	118.7
農林漁業	35	7,127	6,526	309	292	102.5
自由業その他	2	623	471	128	24	73.1
小・中学生	20	11,887	8,664	3,207	16	38.9
高校・大学生	9	4,238	2,260	1,961	17	55.4
乳幼児	19	6,145	4,125	2,012	8	74.0
家事従事者	32	11,053	7,696	3,140	217	68.3
無職	30	3,714	2,316	626	772	199.0
不詳	—	121	79	40	2	—

表 14 事業所・事務所の規模別新登録者数および発生率(人口10万対)

	新登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
総 数	74	19,760	11,258	8,281	221	95.4
0～9人	8	2,964	1,694	1,220	50	68.7
10～49	20	4,270	2,580	1,631	59	116.8
50～99	10	2,185	1,212	950	23	117.8
100～299	6	2,172	1,235	913	21	70.4
300～999	5	1,859	1,060	777	22	68.5
1,000人～	25	6,310	3,477	2,787	46	102.2

表 15 新登録例の登録時検たん状況および排菌状況

	実 数	%	%
総 数	244	100.0	—
排菌状況不明	84	34.4	—
排菌状況判明	160	65.6	100.0
排菌陽性	24	9.8	15.0
排菌陰性	136	55.7	85.0

表 16 指導区分別排菌陽性例の発生率(人口10万対)

	新登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
要 観 察	2	561	390	124	47	84.12
治 癒	6	7,043	5,024	1,630	389	19.89
異常なし	16	61,271	41,231	18,781	1,259	6.24

表 17 BCG 接種有無, ツ反応の強さ別排菌陽性新登録例の数および発生率(人口10万対)

		登録数	観察数	在 住	転 出	死 亡	発生率
総 数	総 数	24	68,875	46,645	20,535	1,695	8.31
	0～9mm	2	14,222	10,099	3,825	298	3.29
	10～19	6	33,506	22,369	10,330	807	4.30
	20～29	7	12,809	8,608	3,883	318	13.10
	30mm～	8	5,798	4,000	1,630	168	32.66
	不 詳	1	2,540	1,569	867	104	9.73
B C G あり	総 数	7	36,811	23,187	13,456	168	4.67
	0～9mm	1	6,574	4,439	2,117	18	3.63
	10～19	2	20,440	12,825	7,519	96	2.40
	20～29	3	6,305	3,860	2,420	25	11.81
	30mm～	—	2,317	1,393	902	22	—
	不 詳	1	1,175	670	498	7	21.68
B C G なし	総 数	17	30,067	22,032	6,612	1,423	13.05
	0～9mm	1	7,301	5,414	1,623	264	3.15
	10～19	4	12,178	8,910	2,610	658	7.59
	20～29	4	6,070	4,432	1,361	277	15.24
	30mm～	8	3,266	2,443	685	138	56.05
	不 詳	—	1,252	833	333	86	—

図 1 昭和43年調査時呼吸器症状の有無・種類別発生率(10万対)

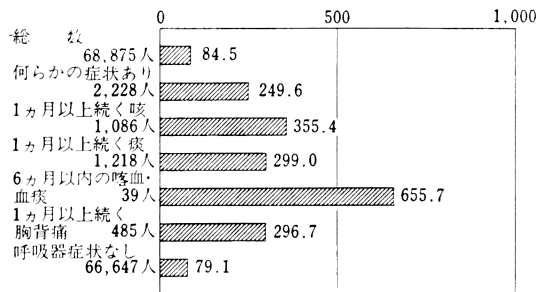


図2 BCG有無, 東西ブロック別発生率 (10万対)

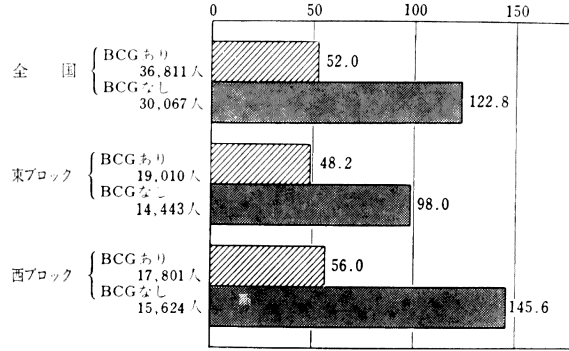


図3 性・年齢階級, 東西ブロック別排菌陽性新登録の発生率 (10万対)

